

本日の議題

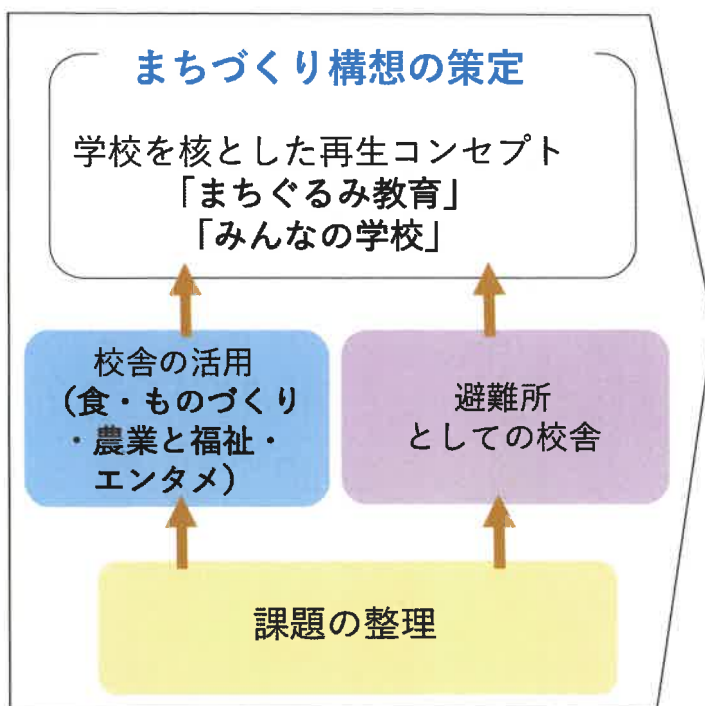
第1回生野小跡地検討会議

- 19:00-19:15 (15分) はじめに
～区長挨拶、会議運営について、セミコロンの紹介など～
- 19:15-19:45 (30分) 「生野区西部地域の学校跡地を核とした
まちづくり構想」の説明
- 19:45-19:50(5分) 休憩
- 19:50-21:00(70分) フリーディスカッション

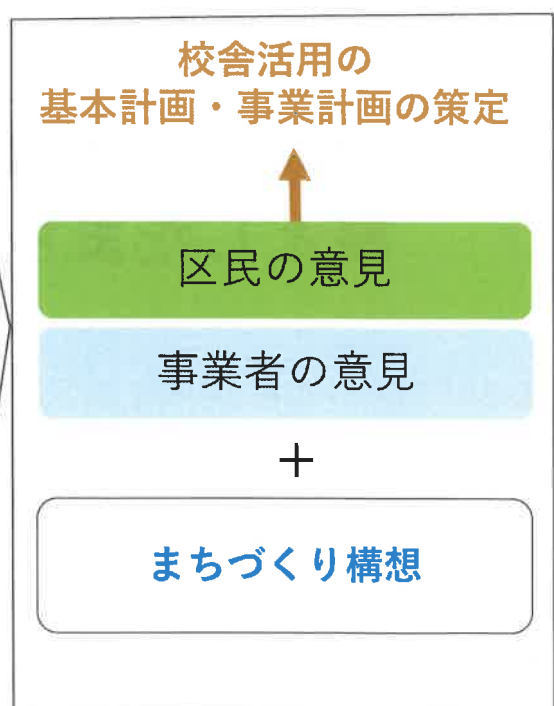
1

これまでの動きと今年度の位置付け

2018年度

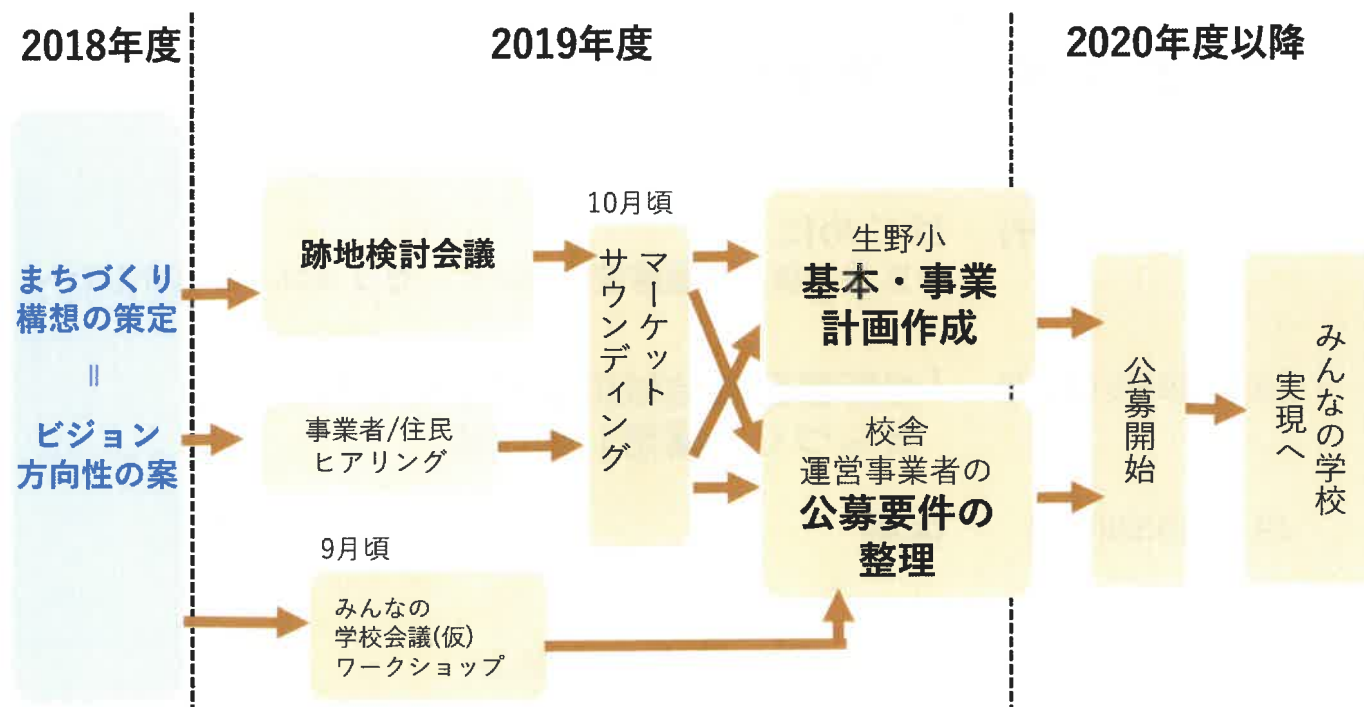


2019年度



2

跡地検討会議の位置付け



3

生野区西部地域の学校跡地を
核としたまちづくり構想（抜粋）

4

生野区の強み

1. 外国籍住民が約20%と全国（都市部）1位の割合
国籍約60カ国にのぼる多文化が共存するまち
2. 日本の自治体の中で突出して在日コリアンの割合が高い
日本最大の 코리아タウンが存在
3. 製造業・事業所数が大阪市内で1位
様々な技術を持った製造会社が多数集積する
ものづくりのまち

*大阪での万国博覧会の公式メダルへのメッキなどの金属等加工
*大阪唐木指物、神具、切子などの芸術・工芸品
*ランドセルやサングラス・サンダルなどの生活関連用品など

5

生野区の強み

4. 様々な年代層でスポーツ文化が息づくまち
 - ・学校、スクールなどから全国レベルの優れた人材を多く輩出
 - ・生野区発祥のニュースポーツ「スリーアイズ」が全市に広がる
 - ・介護予防のための「いくみん健康体操」が区内全域で取り組まれる
5. 計画変更により、
新たな活用の可能性が見込める住宅地区改良事業用地の
空き地（整備未着手用地等）
6. 昔ながらの長屋の住まいが多く見られるなど、
懐かしい昭和の風景が未だ残るまち

6

生野区の強み

7. NPO法人・ボランティア団体の数が多く市民活動が活発
福祉施設や障がい者の支援団体が多く、
社会的包摂の視点を大切にする土壌
8. 地域のつながりが比較的強い
生野区は市内でも有数の"地車どころ"
夏祭りや秋祭りには、各地域で盛んに曳航される
9. いくつもの歴史ある商店街や長屋や町工場、銭湯等が残る
匿名都市*ではない人間的な土壌が残っている文化
*不特定多数の一員で人々の特徴がわかりづらい都市

7

生野区の抱えている問題

- ・ 子育て世代の流出が年々増加
- ・ 児童数も、1998年から2018年の20年で、
大阪市は-10%減に対して、生野区は-35%減
- ・ 路線価（1㎡当たり）は、生野小周辺エリア（東南方面）も、
約17万円（2007年）から約14万円（2017年）に減少
- ・ 高齢化率（約30%）/高齢単身者率（約20%）は、
大阪市より6%高く年々増加
- ・ 空き家率（約22%）は、大阪市平均より
過去1%差から、現在は5%に上昇

8

その他 生野区の抱えている問題

- ・ネガティブイメージの定着
- ・多文化共生への理解
- ・エリアマネジメント（公共交通政策）
- ・産業の疲弊
- ・子、孫の世代が帰ってこない
- ・災害に伴うまちへの甚大な被害の可能性

9

生野区ですべきこと

- ・今すでにある生野区の強みや魅力、資源や潜在力を活かし、子どもたちや子育て世代に魅力的な教育と居住の環境の創出
- ・ネガティブイメージを払拭する
新しいイメージの発信

学校再編をこれらの解決に
活かす機会と捉える！

再生ビジョン

まちの空間、歴史、人、文化は
学びの宝庫

「学び」の宝庫である、生野区の空間、歴史、人、文化を活かし・・・

生野区ならではの「新しい学びのかたち（環境）」
をつくることから、
生野区全体の再生を実現していく

人が集まる
知恵が集まる
学びたい気持ちが湧いてくる
誇りが生まれる

小学校という【学びの場】を活用した
まちの再生ビジョン

11

再生コンセプト



みんなで作る、
みんなで学ぶ、
このまちだけの、未来の学校

再生コンセプト



生野区の空間資源と潜在力を活かし・つなぎなおす
様々な“学び”に、生野区の人々が関われることで、生野区全体が学びの場になる
生野区ならではの、暮らし・教育、仕事を育てることから、
生野区全体の再生を実現していく

13

みんなの学校活用イメージ

CASE STUDY 01

CASE STUDY 01 : 活用コンセプト案



School of Food Entertainment Business

世界のフードビジネスのスタートアップ学校 ～世界の食が集い、交わり、新たな食/職を生み出す発信拠点～

15

CASE STUDY 01 : 活用コンセプト案



若者が様々な国籍の生活文化を 表現手法・なりわいとして学べるまち

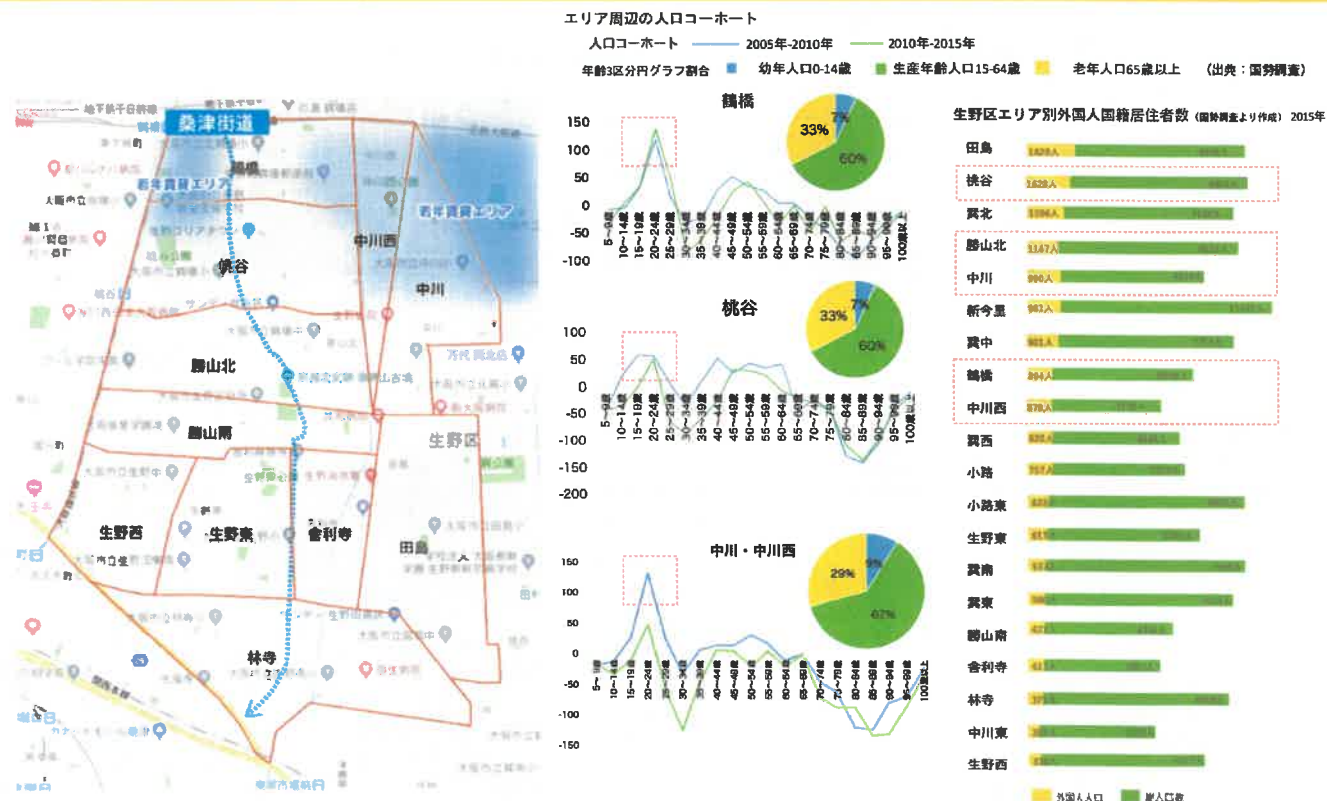
生野の様々な国籍の生活文化を発信するエリア
独自の食・エンタメ産業を、生活の中で学び、発信・開拓する

16



日本最大のコリアタウンに隣接している

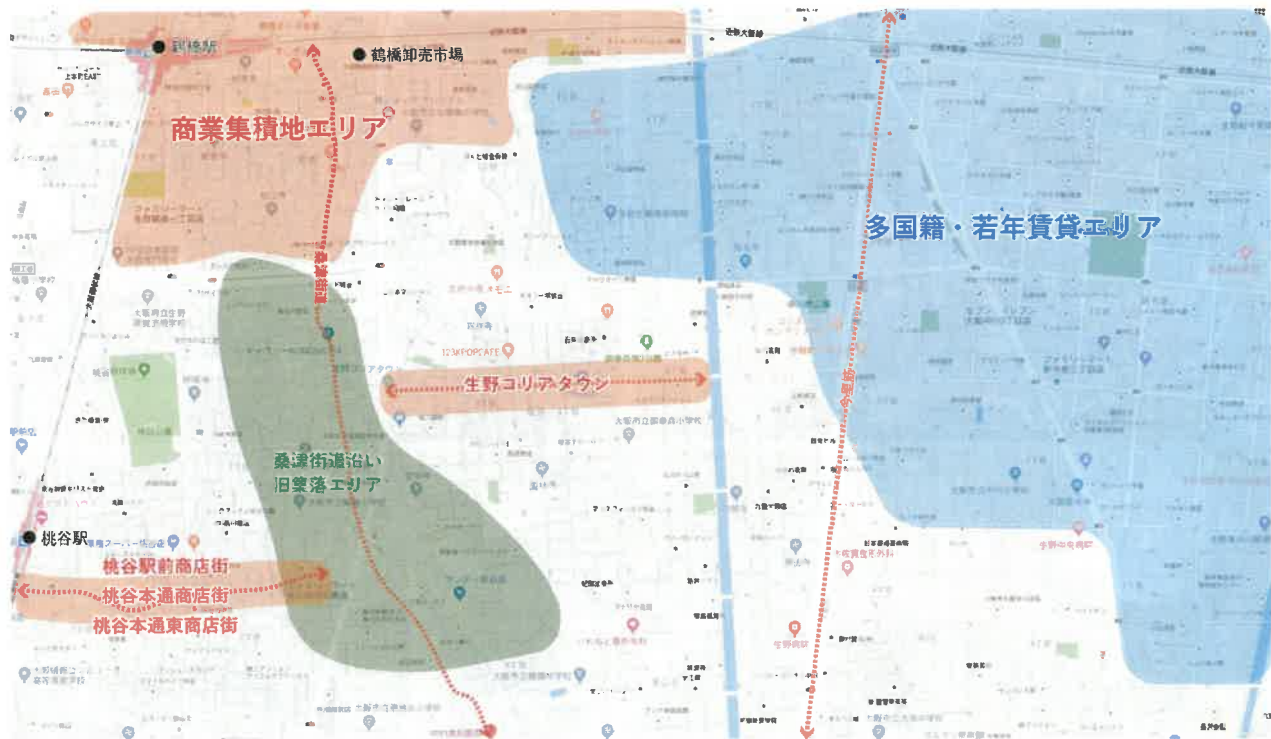
17



20代が多く、かつ外国人の多いエリアに囲まれている

18

CASE STUDY 01 : エリアの特徴



観光客を惹きつけるコリアタウンに近接し、
多国籍な若年層、旧集落の高齢者をつなぐポテンシャルがある

19

CASE STUDY 01 : 活用内容 世界のフードビジネスのスタートアップ学校

シェアキッチン併設の賃貸住宅



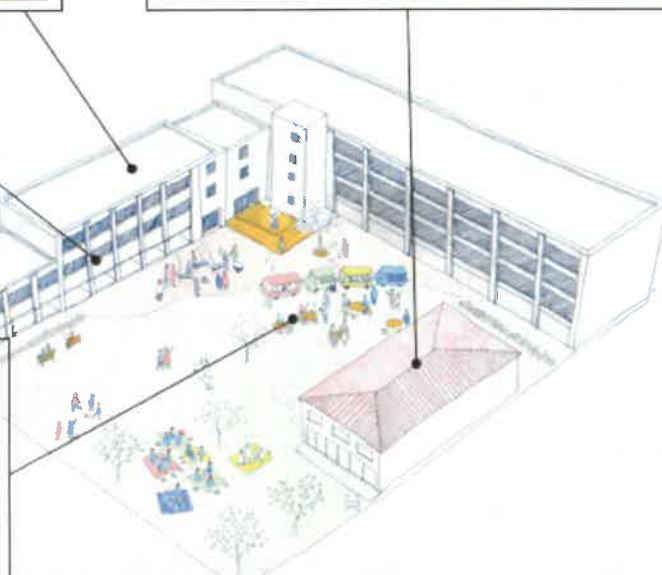
体育館をエンタメや食の体験施設へ



飲食店舗（元家庭科室等を活用） 国際センター



校庭をフードトラックの集う公園とする



※防災拠点としてのスペースの確保及び機能の充実も図る

20

CASE STUDY 01：活用ステップ案とターゲットイメージ

コンセプトの発信

協力者・利用者を集める

施設オープン

周辺エリアとの連携

Step. 1 当事者を集める

コンセプトの発信

シェアキッチン運営者（企業）候補

- ・多国籍な食のスタートアップに
関心のある企業

エンタメ施設運営者（企業）候補

- ・コリア文化やエンタメに関心のある企業

運営協力者候補

- ・周辺飲食店の料理人
- 講師等として参画
- 働き手のリクルーティング
- ・周辺の料理・語学スキルのある
高齢者

→ 地域の高齢者の社会参画

- ・在日外国籍住民との参画

核となる飲食店舗・出店者候補

- ・地域内外の外国人の料理人
- ・若手の憧れとなる地域の料理人

Step. 2 協力者・利用者を増やす

参画の機会を提供する

施設の顧客ターゲット

- ・コリアタウンにくる観光客
- ・周辺の高齢者・留学生
- ・生野区の小・中学生
- 食を通じた国際・文化交流

シェアキッチン / 小規模店舗・利用者

- ・食の起業に関心のある留学生
- ・飲食系スモールビジネスの場所を
探している経営者

賃貸住宅・居住者

- ・30代料理人（シングル）
- ・食に関心のある外国人留学生
- ・食に関心のある20 - 30代カップル

遊休工場でデリバリーカーの製作

- ・地域内外への出張ケータリング
- 飲食ビジネスのインフラ
- 災害時の食料供給

Step. 3 エリアのブランディング

地域資源の活用

まちの飲食店との連携

- ・技術を身につけた学生がまち
の飲食店で働く（職業訓練等）

外国人の雇用

- ・国際センター等での仕事
- ・飲食店スタッフとしての仕事

国際交流の拠点

- ・生活・雇用に伴う相談や
多文化交流の機会を提供

空き家活用の店舗出店等

- ・技術を学んだ学生が、
周辺の空き家や都心部へ
「卒業」する

21

CASE STUDY 01：まちへの波及や関係性

デリバリーサービス

- 学校跡地ではフードコートのように飲食・食
物販の店舗が集積

- 周辺の高齢者向けの宅食・配食事業も展開



フードトラック

- 大阪、周辺のまちへの情報発信
- 料理人志望者が店舗を展開するチャンスを作る



まちの飲食店との連携

- 留学生などの学生が、まちの飲食店などで
働く機会を提供する（職業訓練など）
- 料理人や経営者が、講師として学校跡地での活
動に参加し、ノウハウの伝達や、働き手のリク
ルーティングを行う
- 食とVR等の新たなエンタメの開発



病院

飲食店

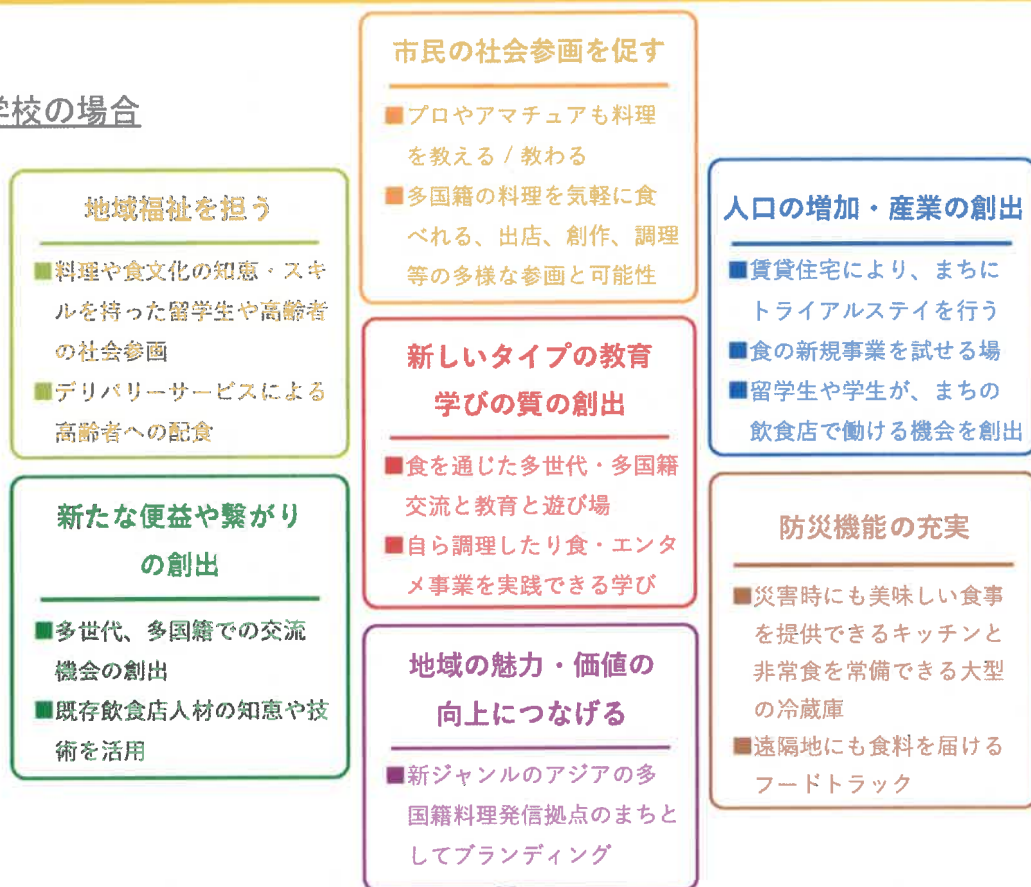
高齢者向け住宅

空き家

22

みんなの学校のまちへの影響

食の学校の場合



23

みんなの学校活用イメージ

CASE STUDY 02